

# 「ものづくり磯谷塾」を開催



## フォロー教育実施

2年目は改善事例発表を重点に

平成十六年度の第一回目の「ものづくり磯谷塾」が四月二十八日(月)午後二時から、前回実施した協和工業(株)において、関係者三十八名が出席してフォロー教育の改善事例発表会が開催されました。

初年度の磯谷塾は、塾生の三事業所に会場提供をお願いし、それぞれの作業現場を教室として、改善手法の座学とグループを編成し「現場調査」問題点の探索「改善提案」の手順で、現場の改善行動学の両面教育を進めてきました。

その間には、磯谷会頭の出身会社で、改善がすばらしく進んでいる(株)豊田自動織機長草工場を見学

し、改善のお手本として「現地・現物」で「みる目を養う」勉強もしてきました。平成十六年度の磯谷塾の進め方は、ステップアップし、以前実施した会場会社で、塾生の改善提案が、どう生かされ、会場会社主体でどこまで改善が進んだかをチェックする「フォロー教育」を中心に進めることになりました。

### 人材育成が大きなねらい

「フォロー教育のねらい」としては一つには、改善事例発表を通して、「改善手法の使い方・やり方、改善内容と効果、残された問題点の今後の進め方などについて学ぶ」と同時に、もう一つは、苦勞して改善した結果を、事例にまとめ、発表する場を与えられることにより、視野も広がり、そこに関係した人材がいかに成長していくか・自信を持つて改善に取り組んでいけるようになるかという「人材育成」の面からもしっかり学んでいたきたいという、二つの側面が含まれています。



今回実施した内容は、二部構成の発表形式で進められました。冒頭磯谷塾長の挨拶に始まり、①前回の会場で実

施した各グループの発表内容と、塾長からどんな指導があったかを整理した前回の報告事例と：

②その後、会場会社として塾生から提案された改善案をヒントに、何をどんなやり方でどう改善してきたかを整理した改善事例報告です。

最後に、発表内容の質疑応答のあと塾長の講評と改善ポイントの整理の仕方等について指導を受け、大変有意義な実り多き事例発表会となりました。



協和工業(株)の発表内容はQC手法を取り込んで、特性要因図やグラフで表現し、写真やビデオを使って、改善前・改善後の景色や動きの状況変化を分かり

やすく表し、効果把握はどうだったのか、残された問題点は何があり、今後どうして行こうとしているのかを、QCストーリーで事例をまとめ上げ、パワーポイントを使って発表されたので、改善努力の後が大変良く分かる内容でした。

### 中部経済産業局も注目し参加

また、今回の特徴の一つとしては、大府商工会議所の会頭みずから塾長を務める「ものづくり磯谷塾」には、開校直後から経済産業省中部経済産業局も注目され、今回の会場に、産業振興部産業振興

課の「ものづくり人材担当」の田島参事官、岸課長補佐、山田総括係長の三名の方も参加出席されました。

将来を担う後継者の塾生が、どんな姿勢で「磯谷塾の勉強」に取り組んでいるかの確認と、併せわが国経済の根幹を成してきた「ものづくり」の人材が減少という危機感から、国も「ものづくりの中核人材育成の施策プログラム」の作成ニーズもあり、最後まで関心を持って見聞されておられました。

今回は初めての事例発表会ということ、塾長は何度も会場会社に足を運び、きめ細かな指導を重ね準備を進めてこられました。

その結果、一例を見ても「段取り替え時間短縮」テーマでは、改善後は半減に成功し、大きな改善を図ることができました。

### 努力をすれば人は成長する

中でも特記すべきことは、前回の時には、とても自信なさそうな発言内容をしてきた現場管理者が、その後約一ヶ月改善に取り組み、改善事例を纏め上げたことにより、「また改善の余地がある、更に半減できるかもしれない」と自信に満ちた言葉が聞かれるまでに変わったのは驚きであり、今回のフォロー教育の効果を如実に物語っていた。

今後、昨年度実施した残りの二社に対してもフォロー教育を実施し、塾生一人ひとりに改善の喜びと、自信を身に付けていた、たくよう、更に継続して磯谷塾を続けていく予定です。

Obu City